

IFRS講座講義録

科目

実務編

Ver.

1.0

回数

1

配
付
物
☒ 補助レジュメ ()
☐ 補助レジュメ なし
講
師

藤本

先生

教
材
ペ
ー
ジ

黒 板 内 容

< ガイダンス >

p1

① IFRS 実務編の位置づけ

→

アウトプット

p1

② 考える練習の必要性

→

原則主義

p2

③ 講義の進め方

→

みなさんが主役

p3

< ケーススタディの事前準備 >

① 会計の役割とはなにか？

→

実態の数値化

B/S

P/L

企業

会計

拘り定規×

IFRS講座講義録

科目

実務編

Ver.

1.0

回数

1

配
付
物
☒ 補助レジュメ ()
☐ 補助レジュメ なし
講
師

藤本

先生

教
材
ペ
ー
ジ

黒 板 内 容

p5

② 日本基準とIFRSの違い

→ 思考のスタートが異なる

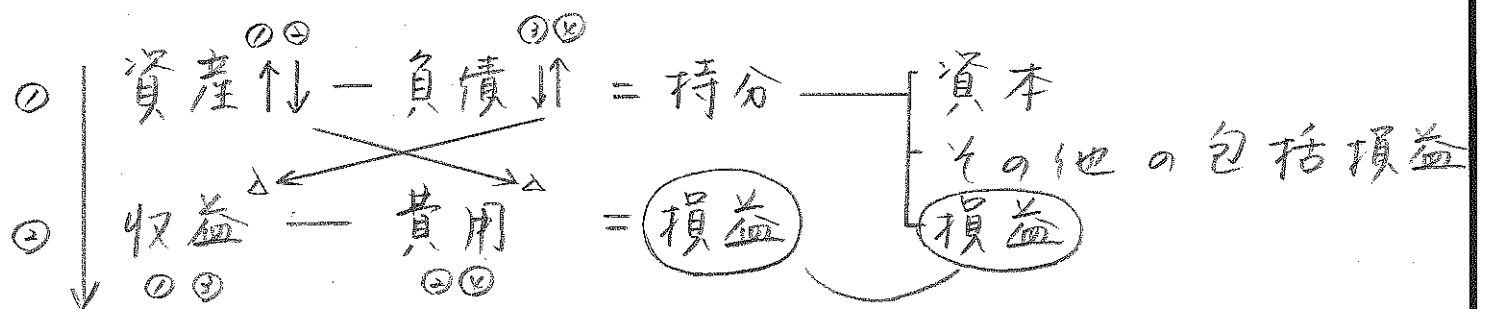
帰納法 → 演繹法

p6

・ 日本基準 → 収益費用 アプローチ

売掛金 100 / 売上 100

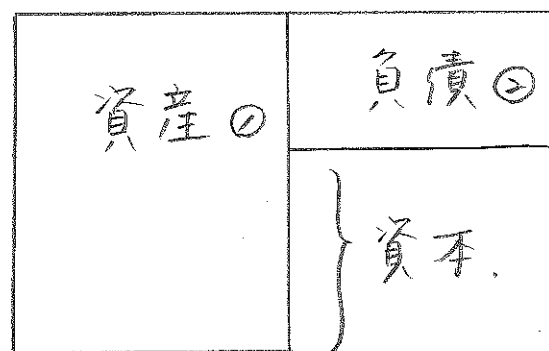
・ IFRS → 資産負債 アプローチ



p7

(IFRS 思考プロセス)

取引



IFRS講座講義録

科目

実務編

Ver.

1.0

回数

1

配
付
物
☒ 補助レジュメ ()
☐ 補助レジュメ なし
講
師

藤本

先生

教
材
ペ
ー
ジ

黒 板 内 容

p 8

③ 時価主義は可能か？

p 9

 取得原価
 時価

客観性

○

△
~~~~~

含み損益

×  
○ ↓

p 10

④ 導入実務でのコア思考

(1) 取引実態の反映

(2) 実務上対応可能か

p 12

(3) 社会通念と照らして妥当か

p 13

&lt; IFRS導入実務の流れ &gt;

p 14

